

(休憩中) ※議長より傍聴者に聞こえるようはっきり話すことについて注意。

(議長)

休憩を閉じて再開致します。

次に、小林議員の発言を許可致します。

「小林議員」

議長。

(議長)

「小林議員」。

「小林議員」

今日はあの2問、質問を用意させて頂きました。

1つは地域医療についてということで、道立病院への地域支援のあり方についてです。町長の執行方針にもあるように、分娩の再開、また常勤医が増員になる等一定の地域中核病院である道立江差病院の機能の強化は喜ばしいところで、道立病院への医師研究資金の貸付制度の運用も功を奏しているのではなかろうかと思います。北海道は地域医療計画を立てなければなりません。そういう意味でこの江差町は道立病院があり、医療の安定供給には他の町村から比べると恵まれた条件と言えます。道立江差病院の安定的な発展の為にも、各地での取り組みに学ぶ必要もあるかと思っています。例えば、同じ道立病院のある羽幌町では地域団体住民と病院職員の交流会を持つ、この取り組みは道立羽幌病院の常勤医が減少し、住民に病院存続への不安が広がったことを受けて2011年から町商工会等町内11団体で発足、現在は近隣の町村の諸団体も参加しているようです。ここの事務局は医師や職員が羽幌に来やすい、そういう環境づくりを主眼にしているとのこと、年2回の病院スタッフとの交流会、町も26年6月には地域医療を守る条例を制定し、町民と医療機関相互の理解と信頼関係をより深め、行政と町民そして医療機関相互の協働によって地域医療を守るとしています。今後の地元のこの地元江差町でのこういった経験も踏まえ、支援等考えていらっしゃるようであればその辺のところ、お聞きください、お聞かせください。

「町 長」

議長。

(議長)

はい、「町 長」。

「町 長」

小林議員の1問目、地域医療についてでございます。

道立江差病院の支援が一定の成果をあげているが、地元江差町の今後の支援をどのように考えているのかとのご質問ですが、これまで医療従事者である医師、看護師確保対策は一定程度取り組んで参りました。しかし、病院の診療体制では、分娩の再開はしておりますが、初産婦からの出産が出来ない状況、2次救急医療、整形等、緊急手術に対応が出来ていない、週1回の診療科がある等、診療スタッフの問題で診療体制が十分とは言えない状況があります。また、行政報告しましたように、看護師不足により病床数を減じて運営している状況等まだまだ課題は多くありますので、次年度以降も医師、看護師確保に向けた町の貸付金制度の推進とともに、南部桧山各町と連携し病院機能の充実に取り組んで参ります。また、近年地域の医療を守る活動が各地で行われております。道立江差病院でも院内、院外でのボランティア活動等を含めた地域支援活動が出来ないか関係機関と引き続き検討して参ります。

(議長)

はい、「小林議員」。

「小林議員」

はい。直接ちょっとあの聞きたいと思いますが、道立病院や例えばここできょうと振興局等から例えばその病院運営とかですね、そういったところで、例えばその江差町であったり、この管内の町村にこんなようなまあ応援といいますかね、支援、応援をしてくれないかとかいうような要請というものは具体的にあったりするのですか。

(議長)

「健康推進課長」。

「健康推進課長」

現実的に、振興局とは何回か協議させてもらっております。この中には道立病院の事務局も入っていますし、保健所の方も入っています。それでやはりあ

の議員おっしゃる通り、地域でのボランティア、支え等の活動が重要だと思いますけども、江差町には既にあの檜山の、南檜山の医療と福祉を考える草の根の会がございまして、平成20年ですか。この頃から活動を行いまして、一定の成果を上げてきました。これは皆さんご存知でないかも知れませんが、小児科におけるやはりコンビニ受診とかの抑制に大変効果を表しております。こういった取り組みも江差町の中には既にあります。近年ではあの広報活動という形になっておりますけども、町としましてはそういった既存にある団体とも連携を図りたいと思っておりますし、他町のあの状況を見ますと、やはりあの積極的な地域住民がおります、住民の中で取り組みをしっかりとやって頂ける方が現れる、いるのが現実でございます。江差町でもそういった地域の支えの中では、人材を確保したいと思っておりますし、行政と致しましてもそのような協力できる方を、何ていいますか、育成しますという形ですか、そういう方を求めながらあの推進していきたいと思っております。

(議長)

いいですか、「小林議員」。

「小林議員」

はい。関連でありますけれども、少子高齢化、まあ達者会と言われる昨今ありますが、昨年の秋以降、その道立病院のですね、施政方針の中にも触れられておりますけれども、深刻な看護師不足により病棟閉鎖はこの地域の医療に少なからず影響与えています。道や病院の確保に向けた取り組みを期待するところです。また、先日、2月28日、江差町文化会館で「あずましくこの町で暮らす」と題し、講演とシンポジウムを行いました。江差町にも後援も頂きありがとうございました。江差町以外、内外から高齢者も含め、約300名の参加があり、盛況裏に終わったようなところもあります。集会を準備する中でも、また講演の中でも地域の中で看護力、介護力が今後の高齢化社会の中で重要さが訴えられたところです。この問題で触れますと、この地域において、江差訪問看護ステーション、総合在宅ケア事業団が訪問看護を取り組んでいるところですが、24時間の体制にはなっておりません。医療と介護連携する上でも訪問看護のあり方は重要ですが、町長の見解、また予算の中でも助成金というような形で出ているかと思いますが、このへんの強化というようなところは如何でしょうか。

(議長)

はい、「町長」。

「町 長」

小林議員ご質問の２問目、看護師等専門職の養成についての質問にお答え致します。

（議長）

ちょっと、待って、ちょっと待って、違う。

これ１問目だから、町長２番目の質問、それ。

３問目だな、高橋かつちゃんだな、はい。やっぱりそうだ。

「健康推進課長」。

「健康推進課長」

はい。訪問看護ステーション。議員仰るとおり７０万の助成金を出しております。訪問看護ステーションはあの平成９年からスタートさせておりまして、これまであの在宅における看護ですか、地域におけました大変な力を発揮して頂きました。であの我々は介護保険を担当するに当たりまして、２４時間看護が出来ているのがこのステーションだけでございました。残念ながら２６年７月から看護師さん、どこでも同じなのですけども医療関係は、看護師さんの不足ということで２４時間体制を取り下げた経緯があります。あの訪看としましては看護師さえ確保できればあの関連この厚沢部、乙部、江差、関連町村と協議しながら新たなスタートを切りたいということをお話願っておりますけども、議員お話のとおり人材確保にはかなり苦労しているところがあります。そんなもんでいいですか。

（議長）

いいですか。それで。

「小林議員」

はい。

（議長）

小林議員、２問目の質問。

「小林議員」

はい。ちょっと混乱させてすいませんでした。

あの２番目、看護師等専門職の養成について、ということで質問させて頂き

ます。江差には高等看護学院があつて看護師養成分野では重要な役割を担っていると。で、この間、看護師養成修学資金も出来て、江差で働く看護師が確保され、一定の改善にも繋がっていることを期待しています。しかしながら、医療介護分野でも、地元で働く専門職の確保が困難な状況となっています。地元で若者が働く場としての医療、福祉分野を捉えたときに、看護職だけでなく広くセラピストであったり、介護福祉士等介護職の地元誘導策としての修学支援のあり方は若者の雇用の場の確保として、生き甲斐流出を止める手立てとしても町づくりの要素と考えられると思いますが、この辺については、町長、如何お考えでしょうか。

「町 長」

議長。

(議長)

はい、「町 長」。

「町 長」

先ほどは失礼しました。

小林議員の2問目、看護師等専門職の養成について、お答え致します。

医療、介護分野における専門職の確保は困難な状況は、議員お話のとおりであると私も感じております。道立江差病院におきましては、慢性的に看護師不足が続いている状況であり、資金制度による充足には時間がかかるところです。また、看護師養成修学資金は、看護師確保対策と共に定住化対策にも力点を入れており、この4月に2人の看護師が町の住民となります。地元で若者が働く場としての福祉分野での専門職の養成は、町づくりの要素とのお考えは議員のご指摘の通りだと思います。しかし、近年、福祉、介護分野では労働環境や労働賃金等から若者が敬遠されがちな分野にある状況も窺われます。町が今後進めていく介護保険事業や福祉事業を推進していくためにも専門職等の人的資源の確保は重要なテーマでございます。今後喫緊の課題である、介護、福祉事業を推進していく中でも、各事業に必要な有資格者を町内外から確保していくことが、雇用の場の確保と定住対策になるものと考えており、行政としても医療、介護分野における専門職の確保についても、改めて検討して参りたいと考えております。

(議長)

はい、「小林議員」。

「小林議員」

はい。看護師の確保といいますか、その関連でもう1点だけお聞きしたいと思います。1月に檜山振興局で南檜山保健医療福祉圏域連携推進会議が開かれました。その中でいくつかの町の担当者から、江差高等看護学院への要望が出されておりました。地元推薦の受験生をとってもらえないだとか、域外受験者が合格しても、入学しないので定員割れが発生しているが2次募集をしないだとか、いくつかそういった要望、要望といいたいでしょうか、あのクレームでも無いんですが、そういう意見が出されておりました。これはもちろん学校の選抜試験でもありますし、学校の決定事項だったり道の監督というような部分もあるかと思いますが、まあその町単位で何かというようなこともなかなか難しい問題はあるのかと思いますが、こういうような意見を汲み上げる、それとこの地域における江差の看護学校の役割は本当この地域での看護師養成にとっても非常に大きな課題だと思っておりますので、この辺の要望、意見を汲み上げる必要はある、あろうかと思えます。町長はなかなかそういうのを会議の場では言えないようなところの意見も何かそういうような関連するような会議があれば、是非他の町とですね、一緒にやはり問題解決に繋いでいって頂けないかなというものをちょっと参加をさせて頂いていて強く感じたところであります。でこの辺のところについて、町長はご存知なのかまたこの問題についてどう考えていくのかもしご意見ありましたらお伝えください。

（議長）

はい、「健康推進課長」。

「健康推進課長」

看護学院の問題につきましては、私来ましてから内情を全部調べました。あの愕然としました。あの定数に達してないんです。で、二次募集をかけておりません。あきれました。そういう実態につきましては、道にもお伝えしましたし、振興局の方々にもお話しております。去年の4月、あの院長、それから振興局長、学院の学院長、が集まる顔合わせ会がありました。私、最後の年ですからはっきりとこういう実態について、話を申し上げました。皆さん、びっくりしました。それであのそういう実態を踏まえてまあ町長もこの2月4日の札幌医大に行っております。関係各町との合同の要請行動、この席でもそのことが議論になり、議論というか話題になりました。学院長思わず、札幌医大の学院長思わず電話を取ってかけようと思いましたけども、この場の席ですからということで収めていました。やっとそこまで声が届くようになりました。ですか

ら今後にも期待しています。やはり、近隣で期待していることはあの地域枠というのが渡島、檜山、胆振、後志、胆振ですか、の3地区で3割です。40人に対して3割ですから、12名しか枠ありません。で、推薦状況もお話しますと、定数、12名以上に達するだけの推薦が来ています。でも入学しているのは、半分以下、去年に至っては4分の1です。12名定員枠受けても、3人しか入っていません。推薦ですよ。理由を聞きますと、やはり論文であったり、面接で落としているみたいです。でも、過去にはそれで落とされて一般入試で入った子もいます。すごい意地ある子どもだと思います。そういう実態をお伝えしました。で今回あの道に行ったその学校、医大に行った帰りも道立病院室に寄りましてこの前来た参事、それから室長にもお話申し、町長から申し上げております。恐らく、少しは解って頂いて、皆さんが期待している地元高校からの枠、このようなものも考えて頂きたいってことは申し上げております。何とかそのようになって頂ければ有難いなと思っています。以上です。

(議長)

いいですか。

「小林議員」

はい。

(議長)

はい。

「小林議員」

終わります。

(議長)

小林議員の一般質問を終わります。